

修学旅行にフェリー利用を!!

2021-10-31 池田良穂

団体会員の新日本海フェリーの野瀬氏のご紹介により、北海道運輸局の苫小牧海事事務所の主催する「フェリーを利用する修学旅行体験会」の講師として招かれ、苫小牧港の見学、太平洋フェリーの「きたかみ」による苫小牧から仙台への乗船会に参加しました。

北海道の室蘭で育った筆者の中学の修学旅行は、列車と青函連絡船を利用した仙台・松島への旅でし。えんえんと列車の旅が続いたのをよく覚えています。

最近の北海道の中学の修学旅行は観光バスや飛行機を使うことが多らしく、フェリーを使うのは珍しい部類に入るらしいのですが、これを復活しようと官が企画したもので、中学校の先生と旅行業者を募って、8人が集まり、筆者と苫小牧港関係者を合わせて20人ほどのファミトリップとなりました。

このファミトリップ^{注)}の前日、飛行機で千歳空港に入り、路線バスで苫小牧駅に向かいました。せっかくの機会なので、駅でレンタカーを借りて、日没まで3時間ほど苫小牧港をみてまわりました。苫小牧港は、大規模に陸地を掘りこんで作った人工港であり、今では国内有数の港となっており、本州とを結ぶフェリーや RORO 船の拠点港にもなっています。初対面の RORO 船も多く、八戸からのシルバーフェリーの「シルバー・プリンセス」の入港シーンも見ることができた。港をまわってみると、RORO 船埠頭

の付根にキラキラ公園という港を見渡せる公園ができていました。また、いつも入港船を撮影するタグボートや給油船の船溜まりの岸壁と防波堤には、「関係者以外進入禁止」との看板が目につく状態となっていました。この日の夜に、今回の企画を主催した港を管理する幹部とお話をする機会があったので、キラキラ公園のように市民が船を眺めることのできる場所をできるだけ作って欲しいと要望しました。ドイツのハンブルグ港のように、入港する船を出迎えられる「ウェルカムポイント」のような場所があれば、市民と船、港の距離を縮めることができるように思います。港湾荷役の邪魔にならないような配慮をしながらも、市民がウォーターフロントに親しむことができる対策をとることが必要なのだと思います。

さて、翌日のファミトリップの1日目は、RORO 船の船内見学、鋼材運搬船の荷役の見学、物流倉庫内部の見学、国際コンテナ埠頭の見学などして、その後、パイロットの方、そして「きたかみ」の飯野船長の講和があり、その後で筆者が船酔いについて短いお話をしました。関係者が各地の教育委員会や学校を廻ったところ、船酔いに対する心配の声が多く聞かれたとのことで、ちょうど台風が太平洋を北上していたので、乗船前に少し話しておくことにしたため、なぜ船酔いは起こるのか、船酔いしないための対策などの話をしましたが、台風の足が意外に速く、残念ながら??船が揺れる心

配はなくなってしまいました。

夕方、苫小牧港を出港する「きたかみ」に乗船しました。乗船前にターミナルの展望デッキから3隻の大型フェリーが停泊する様子を見たが、まさに圧巻でした。苫小牧のフェリーターミナルでは、車の誘導は各船社ではなく、管理会社が一括して行っているとのことでした。

「きたかみ」は竣工披露時に名古屋で船内見学をさせていただいていましたが、乗船して航海するのは初めてでした。名古屋航路の「いしかり」と「きそ」に比べるとシンプルですが、苫小牧～仙台間の一泊の旅には十分な設備が整っていました。またレストランでの夕食と朝食のバイキング料理は、品数も多く、なかなか美味しいものが多かったのも印象的でした。

翌朝は、10時の仙台入港まで太平洋の船旅が楽しめました。北へ向かうさんふらわあの姿や、RORO 船の姿を見ていると、やがて金華山沖にさしかかり、船は右に針路を変えて仙台に向かいました。

仙台港は、入るとすぐに火力発電所と石油基地があり、大型タンカーが荷役中で、近くには小型タンカーがたくさん停泊していました。次に穀物サイロがあるバルクキャリア埠頭、RORO 船埠頭、そしてフェリーターミナルと続きます。中学生の社会科教育には絶好のコンテンツが並んでいるのをみて、さっそく上陸後の特別講義にも盛り込むことにしました。

10時に着岸、近くの会議場の教室で、1時間の特別授業「海運とフェリーの役割」をしました。この後、ファミトリップは東日本大震災跡などを見学するバスツアーを行って

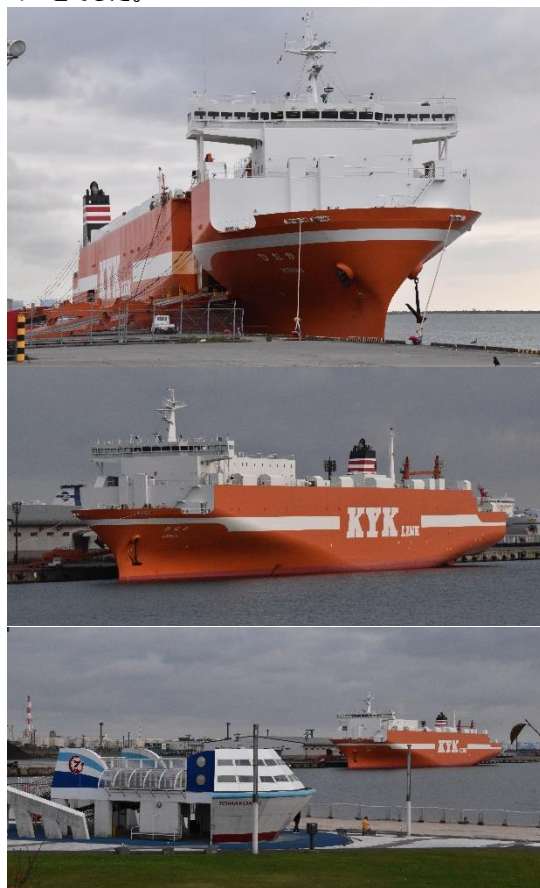
飛行機で北海道に戻る行程でしたが、筆者は講演を終えた後、すぐに仙台空港に向かって帰阪しました。

注)ファミトリップ: 観光地等の誘致のため旅行者、メディア、プロガー等の関係者を招待して旅行を体験してもらう旅行企画で、Familiarization Trip の略。

苫小牧港



キラキラ公園から、苫小牧港の RORO 埠頭が一望できる。クルーズ客船もこの公園の埠頭に着岸できるとのことでした。



RORO 船ターミナルに停泊する近海郵船の「ひだか」をキラキラ公園からよく見ることができました。初めての出会いでしたので、いろいろな角度からの写真撮影をしました。



この日の RORO 船埠頭には、栗林商船「神永丸」とフジトランスの「芙蓉丸」が停泊していました。



フェリー埠頭には商船三井フェリーの「さんふらわあさっぽろ」と、太平洋フェリーの「いしかり」が停泊していました。



夕刻、シルバーフェリーの「シルバー・プリンセス」が入港してきました。



翌日の RORO 船埠頭には「つるが」が停泊していました。



出港する「きたかみ」のデッキで、「きたかみ」のファンネルと、後ろに停泊する「シルバー・プリンセス」を撮影しました。



「きたかみ」のロビーから見たレストラン(中央から右)と、インサイドプロムナード(左)です。



ロビーの 2 階の左舷側スペース。左の奥はレストランスペースとなっています。

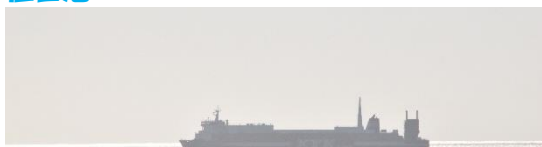


料理の並ぶバイキング式のレストランです。



一階のエントランスには、テレビの視聴スペースがあり、右に展望浴室、左に案内所と売店があります。

仙台港へ



北へ向かう RORO 船やフェリーと反航しました。



金華山沖を過ぎると針路を右にとり、仙台へと向かいました。



仙台港に入ると、まず火力発電所、石油タンクが並ぶエネルギー基地があります。



次に穀物サイロのあるバルクキャリア埠頭の横を通過しました。この日は、船はいませんでした。



RORO 貨物船埠頭には2隻の RORO 船が停泊、荷役中でした。前が「玄武」、後ろが「ふじき」です。



「きたかみ」は仙台のフェリーターミナルにゆっくりと近づき、着岸しました。



売店で「きたかみ」の御船印を 300 円で購入しました。これで 6 枚目です。